

現地ルポ

# MBA

## アソシエ 読者 英国 体験記

1週間

「後編」



ビジネスパーソンとしてスキルを上げるために「MBA(経営学修士)」などの学位に挑戦しようと考へる人は多い。

だが、MBAや理学修士で何を学べるか、体験する機会はあまりない。そこで英国の公的文化交流機関「ブリティッシュ・カウンシル」の協力を得て、2人のアソシエ読者に1週間ずつ、英国で留学を体験してもらいたい。密着取材した。2人の目線で見た授業の内容、同級生とのやり取り、2人の悩み、喜び、そして決意をリポートする。2回連続シリーズの後編。

(敬称略)

伊藤は行き先にバース大学大学院を選んだ。ここにはMBAのほか、MSc in Responsibility & Business Practice(ビジネスにおける社会的責任についての理学修士コース。以下、MSc)がある。

MScの学生は企業の社員、NPO

敬士(36歳)に続き、今号取り上げる伊藤麻衣子(29歳)も仕事に生かすための海外学位取得を希望している。

伊藤は若手起業家を支援するNPO(非営利組織)「ETIC.」のスタッフとして、起業を希望する若者に対してビジネスモデルをどう構築したらよいかのコンサルティングを行っている。体系立てて経営学を学ぶことで、より効果的にコンサルティングができるようにならうと考えているのだ。

伊藤は授業の前後も情報交換の貴重な時間だ

そして渡英。ロンドンから2時間電車に揺られ、バースに到着した。

最初の授業はMScだ。30人弱の学生たちの国籍は英國、フランスなど欧

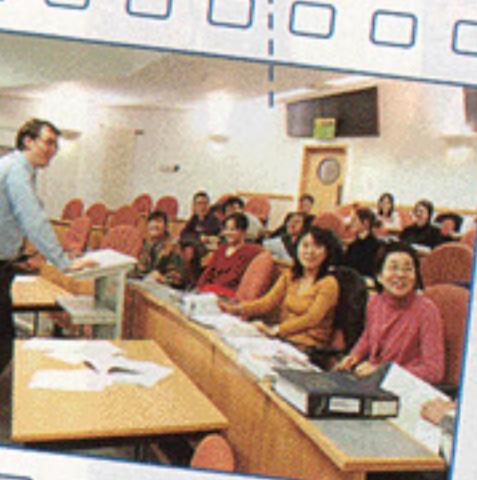
のリーダー、コンサルタントらだ。ビジネスパーソン向けのコースはMBAだけでは不十分だと感じた教授が1997年に発足させた学位で、非営利団体や企業で社会貢献を担当する部署の運営手法などを学べる。3ヶ月に1週間ずつ、2年間で合計8週間の授業を履修するパートタイムコースで、伊藤が滞在する週はちょうど授業期間に当たっていた。伊藤は大学と交渉し、1週間でMBAとMScの両方を体験するプログラムを組んだ。

MScの授業では学生も教授もリラックスしている

経済学授業。みんな笑顔なのは授業が終わっているから

1週間留学を体験するMBA専用校舎。緑に囲まれている

ロンドン、ヒースロー空港に到着。久々の英國



MBAの授業風景。  
後ろに座る欧米人の方が活発な印象だ